

平成 2 7 年度

地球環境「自然学」講座

第 3 回

テーマ

日本の人工林と林業再生

講師

谷林業株式会社 取締役

谷 茂則

平成 2 7 年 5 月 9 日（土）

N P O 法人シニア自然大学校

講師プロフィール

谷 茂則（谷林業株式会社 取締役）

平成11年3月 関西学院大学 社会学部 卒業

平成11年4月 谷林業株式会社 入社

現在に至る

所属団体

奈良県林業倶楽部 会長

吉野林業協同組合 専務理事

取得資格

税理士試験合格

宅地建物取引主任者

森林インストラクター

森林セラピスト

森林情報士（GIS2級、森林航測2級）

森林評価士

林業技士 森林評価部門

自己紹介

谷林業株式会社は、奈良県北西部の王寺町周辺と吉野林業地に管理山林を所有し管理しています。林業は現在構造的な不況に苦しんでいますが、チャレンジ精神あふれる若者たちと共に林業の未来を切り開くべく活動しております。作業道の開設や架線や林業機械による伐採、搬出作業といういわゆる林業の現場作業だけでなく、イベントを開催し、ファン層の開拓を行ったり、山林所有者の税務問題を解決するなど、幅広い問題を解決しながらつないでいく、そして全体最適を促すという考えのもとライフワークとして林業に取り組んでいます。

夢は林業に携わる人の職業地位がヨーロッパ並みにあがり、日本の森林がフル活用されながら美しく保たれること。

『最も美しい森林は、最も収穫多き森林である。』（アルフレート・メーラー（1860年～1922年））

日本の人工林と林業再生

谷林業株式会社 谷 茂則

日本は国土面積の約7割を森林が占める森林国です。グーグルアース等の航空写真で日本を見ると、本当に緑が多いことを実感します。

その国土の7割を占める森林のうち約4割、つまり国土面積の25%がスギやヒノキを中心とした針葉樹が植林された人工林です。弊社谷林業の管理する山林もこのスギとヒノキを中心とした針葉樹人工林が殆どです。

この人工林と人工林を管理する林業が、木材価格の下落を始め、木材の利用用途が少なくなったことなど、様々で複合的な要因から、構造的な不況に苦しんでおります。その結果、森林資源は質的に劣化してきており、それを回復しようにも、肝心の森林技術者は全国的に高齢化し、減少傾向にあります。

にもかかわらず、やはり日本は森の国。森林に期待されることは多くあります。水源涵養機能や土砂流出防止機能等といった森林の多面的機能の発揮が求められております。これらの機能は、しっかりとした管理がなされることによりはじめて発揮できる機能であり、これらの機能が脆弱であると、土砂崩れなどが頻発し様々な問題を引き起こします。さらにはそれを経済的、社会的、環境的にも持続的に経営管理していくという持続的な森林経営というハードルの高いテーマが我々林業者に期待されております。

谷林業は、奈良県の北西部の王寺町周辺といわゆる吉野林業地にあわせて1500haの森林を所有し、管理しております。担い手が高齢化する中、少数ではありますが若く意欲的な若者たちと、いわゆる林業の現場作業だけでなく、異業種の方々とイベントを企画するなど、多方面でのチャレンジをしております。

多くの問題点を微力ながら打破するべく取り組んでいる弊社谷林業の未熟ではありますが若くチャレンジablな取組を紹介しながら、今後いかにしてこの豊富な森林資源を余すことなく利用していける仕組みをつくり、豊かな美しい森林と、その美しい森林をその森林から生産される資源をしっかりと利用しながら作り上げていけるシステムを未来の子供たちにプレゼントできるか、そのために今何をすべきかについて、現在考えている内容をお伝えしたいと思います。

将来の化石資源の枯渇や原子力発電の問題、資本主義社会も行き詰まりが語

られる昨今、里山資本主義や地方創生というキーワードがひそやかではありますが、世間をにぎわしております。国土の約 7 割をフルに利活用し、再生産可能な森林の資源を循環的に作り、利用していく技術があれば、この不安要素の多い未来に向けて、林業者として、少しは安心な世の中をプレゼントできるかもしれません。

ただし、非常に数少なくなってしまった林業関係者だけでは、この問題に取り組むには心元ありません。シニア自然大学校の熱心な皆様と、森林林業に関して考えるお時間を共有させていただけることに感謝いたします。

当日の内容

I. 日本の人工林と林業の現状

1. 現状（面積、蓄積、成長量、造林実績、素材生産量、木材価格等、新設住宅着工戸数、日本林業の売上等）
2. 問題点（材価の低迷、インフラ整備の遅れ、外国産材、小規模分散所有、木材流通の問題、急峻な地形、エネルギー革命、林業労働者の高齢化、森林資源の質的劣化）
3. 森林に求められること（森林の多面的機能の発揮、持続可能な森林経営等）

II. 谷林業の取組

1. 谷林業の概要
2. 現在の取り組みと今後
 - ・人材の育成（素材生産技術者、森林計画者、造林技術者、労働環境の整備、安全に配慮した作業環境、自伐林業講習会、未来の山守の育成と新しい山守制度の構築等）
 - ・情報整備（森林調査、森林境界測量、森林情報のデータベース化、GISの構築等）
 - ・経営計画の積上げと経営の集約化
 - ・作業道開設
 - ・収穫作業（架線・ヘリ等による搬出作業、作業道等とそれに見合った機械化）
 - ・回復施業（捨伐間伐等）
 - ・地域社会や様々な立場の人との交流（森サロ、休日裏山フェスティバルチャイムの鳴る森の運営、森のようちえん、障害者福祉施設の取り組み、

グリーンボランティア西和の活動等)

3. 林業の再生に向けて今後チャレンジしたいこと

- ・ 中間土場
- ・ 苗畑
- ・ F S C 認証
- ・ 王寺林業プロジェクト (木の駅プロジェクト、薪プロジェクト、薪ストーブ屋、森林売買プラットフォーム事業、異業種の人々との連携事業、森里海連環事業等)

4. 吉野林業

林業史上最高のビジネスモデル

Ⅲ. シニアのみなさんをお願いしたいこと

F S C 認証

森林サポーター

木の駅

森の健康診断

その他諸々

Ⅳ. 自然観察会について

川上村水と緑の源流館の見学

大橋式作業道 (壊れにくく環境に配慮した作業道) の見学

阪口製材所

大淀町バイマオス発電所の見学

P. S 講義内容は都合により当日一部変更するかもしれません。

ビジネスモデル俯瞰図

ツアー

